

ヤスハラケミカルは、人や環境にやさしい天然素材の原材料を活かした製品を開発・提供することはもとより、資源調達から製造、流通、販売まであらゆる企業活動において環境への配慮を行うことで、持続可能で豊かな環境づくりに貢献していきたいと考えています。

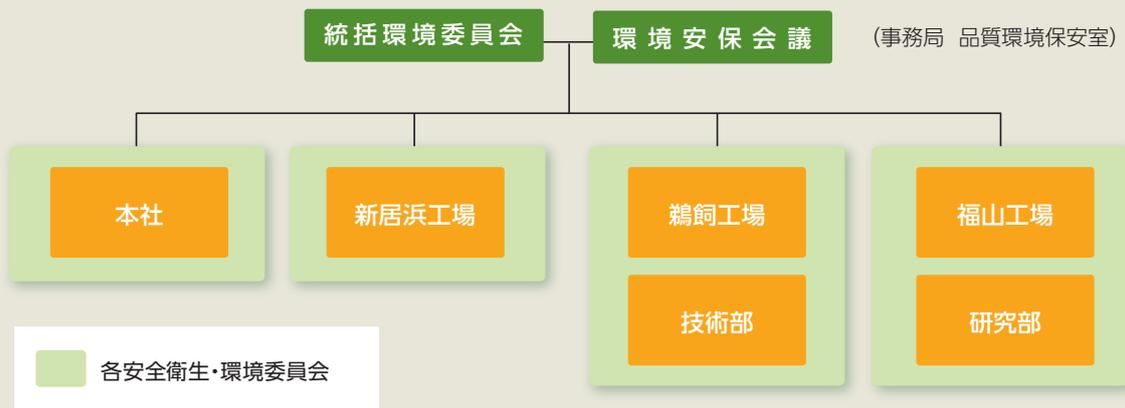
《 環境・安全に関する基本方針 》

- 1 天然物の有効活用による安全で環境負荷低減型製品の開発により、各産業分野における地球環境保護(省資源、リサイクル、健康有害物の排除など)の推進に貢献する製品を提供することで社会に貢献します。
- 2 製品の開発から廃棄に至るまでのライフサイクル全般にわたり、環境負荷の低減を図り、環境保護に努めます。
- 3 無事故・無災害の操業を継続し、従業員と地域社会の安全を確保します。
- 4 原料、製品の安全性を確認し、従業員、物流業者、顧客など関係する人々への健康障害を防止します。

全従業員は、この方針の重要性を認識し、法令、規格及び社内ルールを順守するとともに、常に改善に努力すること。

ヤスハラケミカル株式会社 代表取締役社長 安原 禎二

推進体制



ISO 14001 取得状況	適用工場	新居浜工場(技術課除く)、福山工場(技術課除く)、鵜飼工場
	登録番号	JCQA-E-0264
	認証機関	日本化学キューエイ株式会社

目標達成状況

2024年度の具体的目標と実績

ヤスハラケミカルでは、各工場での環境目標を数値設定・励行することで、事業活動全体における環境負荷の削減を推進しています。

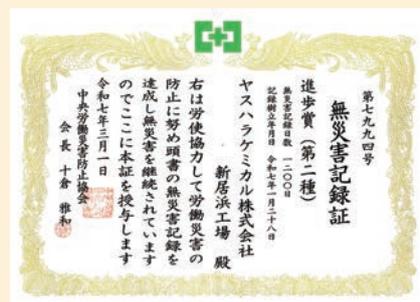
環境活動の目標と実績				
活動テーマ	2024年度目標	2024年度実績	評価	2025年度目標
環境マネジメントシステム (EMS) の推進	EMS認証取得3工場の認証維持	EMS認証取得3工場の認証維持	○	EMS認証取得3工場の認証維持
省エネルギーの推進	エネルギー原単位前年度比1%削減	エネルギー原単位前年度比2.5%削減	○	エネルギー原単位前年度比1%削減
温室効果ガスの排出削減	CO2排出原単位前年度比1%削減	CO2排出原単位前年度比10.2%減少	○	CO2排出原単位前年度比1%削減
産業廃棄物の削減	産業廃棄物排出原単位削減	産業廃棄物排出原単位14.8%増加	×	産業廃棄物排出原単位削減
	産業廃棄物排出量削減	産業廃棄物排出量31.9%増加	×	産業廃棄物排出量削減
化学物質の適正管理	PRTR排出量削減	PRTR排出量12.2%増加	×	PRTR排出量削減
	化学物質リスクアセスメントの継続実施	化学物質リスクアセスメントの継続実施	○	化学物質リスクアセスメントの継続実施
災害・事故	休業災害・事故ゼロ	休業災害0件 事故0件	○	休業災害・事故ゼロ
環境・社会報告書発行	年1回発行	6月発行	○	年1回発行

○目標を達成 ×目標を達成できなかった

無災害記録証授与制度

当社は、2002年1月より当社独自の制度によって、安全意識の向上を目的に、規定の連続無災害日数を達成したグループに対して安全表彰を行ってまいりました。さらなる安全啓発を図るべく、2018年1月より中央労働災害防止協会主催の中小企業無

災害記録証授与制度を活用しています。2024年度は、新居浜工場(従業員数53名)で2025年1月に第二種記録(無災害記録日数1,200日)を樹立し、中央労働災害防止協会より記録証が授与されました。



事業活動における環境配慮への取り組み

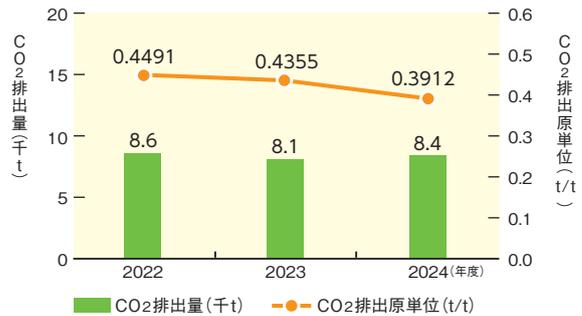
エネルギー原単位

2024年度のエネルギー原単位は、生産稼働効率の改善により、前年度比2.5%減少しました。



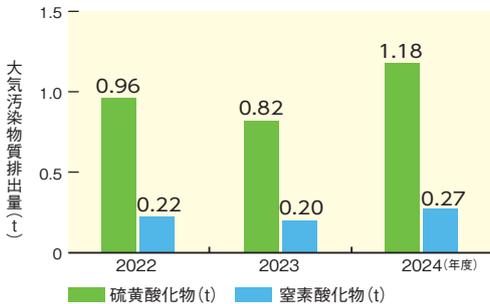
CO₂排出原単位

2024年度のCO₂排出原単位は、排出量を抑制する取り組みにより前年度比10.2%減少しました。



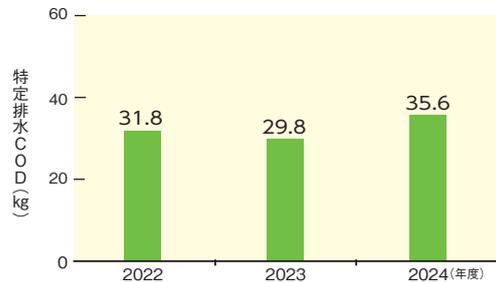
大気汚染物質の排出量

2024年度の硫黄酸化物排出量は前年度比43.9%増加、窒素酸化物排出量は前年度比35.0%増加しました。



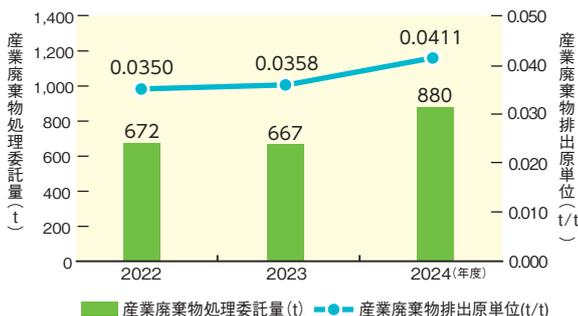
特定排水COD負荷量

2024年度の化学的酸素要求量(COD)負荷量は、前年度比19.5%増加しました。



産業廃棄物排出原単位

2024年度の委託量は前年度比31.9%増加し、産業廃棄物排出原単位は前年度比14.8%増加しました。



PRTR※対象物質の排出・移動量

2024年度の排出量は前年度比12.2%増加しました。移動量は前年度比14.7%増加しました。

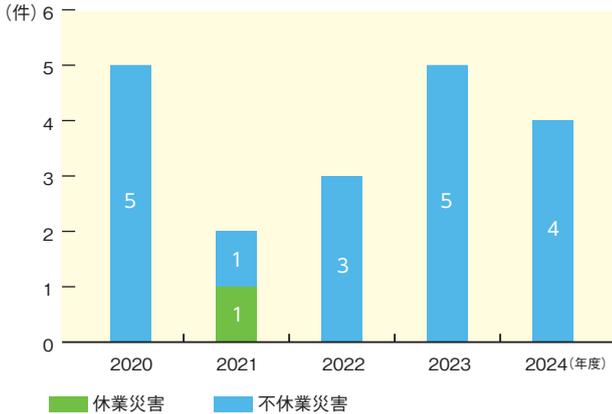
※PRTR:人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質が、事業所から環境(大気、水、土壌)へ排出される量および廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量を、事業者が自ら把握し届出をし、国は届出データや推計に基づき、排出量・移動量を集計・公表する制度です。



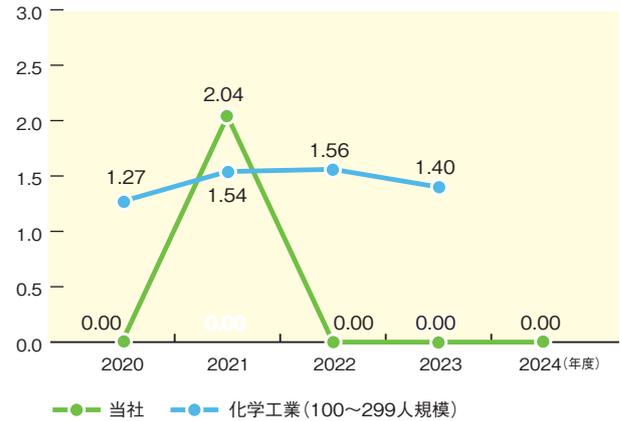
安全衛生への取り組み

従業員の安全衛生に関するリスクを評価し、安全を最優先に事業活動を行っています。また、メンタルヘルス基本方針を定め、従業員一人ひとりの心身の健康が、会社の成長と発展につながる基盤であることを認識し、メンタルヘルスケアの確立及び改善に取り組み、従業員が心身ともに健康を維持し活力に満ちて働くことができる職場環境の確保に努めます。メンタルヘルス不調予防のためにストレスチェックを導入するなど、安全・健康そして快適な職場づくりに取り組んでいます。

労働災害発生件数の推移



休業災害度数率の推移



※度数率は、100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生 の頻度を表す。

$$\text{度数率} = \frac{\text{労働災害による死傷者数}}{\text{延べ実労働時間数}} \times 1,000,000$$

※出典：厚生労働省「労働災害動向調査」の「用語の解説」(6) 項アから引用

安全衛生・環境に関する資格の保有者数

安全衛生・環境に関わる必要な資格の積極的な取得に努めています。

法的に定められた先任者は充足していますが、新入社員をはじめとした若手従業員を中心に資格取得の推進を図り、スキルアップにつなげています。

資格名称	2024年度保有者数* (名)
公害防止管理者	11
エネルギー管理士	11
衛生管理者	25
ボイラー技士・整備士	42
危険物取扱者	153
消防設備士	24
高圧ガス製造保安責任者	46

※2025年1月31日時点の各工場勤務者

COLUMN

従業員の心と体の健康維持・改善のため、健康診断・特定業務健診およびストレスチェックを実施しています。その他に産業医による衛生講話、メンタルヘルスケアに関する教育などの活動に取り組んでいます。

産業医による衛生講話



鶴飼工場



本社事務所